

ここにいるから叶う、恒例のハワイロングステイ

浜松〈ゆうゆうの里〉 田中元夫様(73歳)・友美様(72歳) 平成29年入居時夫婦入居

子供たちが頑張って成長してくれた

奥様 私達は教員同士。同じ小学校の職場で知り合いました。あのころの学校は若い先生がたくさんいて活気がありました。休みの日には同世代の仲間ですキーや旅行などによく行きました。そんな中で二人は自然と仲良くなつて：：私が24歳、夫が26歳の時に結婚しました。

ご主人 息子が二人。核家族で共働きのため子育ては大変でしたね。両親はもちろん周囲にも助けられました。下校後は同級生の親御さんをお願いすることも多



二人でハワイの風を感じながらウォーキング

かったね。

奥様 担任を持つ私は、自分の学校行事が優先で、子供の入学式や卒業式に出られない時は、義姉や友人に代わりに出てもらいました。男の子ふたり、不満も言わずよく頑張ってくれました。大人になつてから次男が「お母さん大変だったね」って労ってくれたことは忘れませんね。

母が入居の縁を結んでくれたようなもの

奥様 それぞれの親を見送り、最後に残ったのが私の母でした。誤嚥性肺炎が原因で要介護になり、施設にお世話になつてから終末期の病院に転院しました。私達は母に会いに、ほぼ毎日施設に通いました。私達はかねてより母を見取つてから「ゆうゆうの里」に入るつもりでしたが、まだ存命中にも関わらず待機していた部屋が空いたと連絡が来ました。母の耳元で「私達もホームに入るからね」って言ったのが聞こえていたのでしょう。母は私達にタイムリングを逃すなど願い自ら幕を引いたと思え

るような旅立ちとなりました。

ご主人 そもそも老後を考え出したのは二人が65歳を超えた頃です。それまで私は何かあれば家内に看てもらおうなど漠然と考えていました。

奥様 私も夫の面倒を看ることになるのだろうかと思っていたのですが、母のことで老後の大変さを実感しました。そんな時にたまたま手にした情報誌で「ゆうゆうの里」を知り思わず主人を見学に誘ったのが始まりでした。

健康管理も、ハワイロングステイ中の留守宅も安心

奥様 〈ゆうゆうの里〉は老後の安心だけでなく、私達の生きがいも支援してくれます。実は、仕事と子育てで忙しかった40代の頃、主人が「ハワイロングステイ」の魅力に取り憑かれました。ご主人 退職したらこんな暮らしをしたいと願った夢が2004年に初めて実現しました。それから現在まで滞在は10数回にのぼります。現地では贅沢はせずに、観光客ではない「カマアイナ」(現

地ハワイアン)の暮らしを楽しみます。仲良くなつたコンドミニアムの住人とそれぞれ料理を持ち寄る気軽な集まりの

「ポットラックパーティー」は楽しみのひとつ。ハワイでは毎朝5時30分に起きて海辺をウォーキングすることから一日が始まります。ハワイの青空とさわやかな風、海岸、夕日、公園、山、夜景、そして仲間にも恵まれ、今日は何をしようか、どこに行こうか、何を食べようかと、気のおもむくままに過ごします。

奥様 入居後は年に2回の頻度で約3カ月の滞在をしますが、部屋を留守にする不安もありません。もちろん、里での暮らしも存分に楽しんでいきます。二人ともにアスレチックジムで体を鍛え、ドライブ、ウォーキングや卓球サークルを楽しみます。息子たちが孫を連れてくるのも楽しみです。ご主人 これからも二人で、里とハワイの暮らしを両立させたいと願っています。

